

プログラム名	空き缶コンロ作り
プログラム概要	空き缶を使ってコンロを作る。マッチと新聞紙だけを使って火を起し、お湯を沸かす。沸かしたお湯で温かい飲み物を飲みながら振り返り。(ティーバック等持参があれば)
動機付け (なぜやるのか)	いざという時に身近なものを使って、工夫する術を学ぶ。 不便さを体験することで、日常生活への感謝の気持ちと、生きる力を養う。
場所	創作室と体育館裏の軒下、野外炊飯場など
準備物・備品	<b>【自然の家からの貸出備品】</b> 皮手(スタッフ用)、灰缶、十能、火バサミ、金バケツ、予備の新聞紙、カッター、缶切り、マジック 手洗いせっけん、ビニール袋(缶のフタ、破片を捨てる用)、ゴミ袋(最後に空き缶を捨てる用) <b>【団体で用意するもの】</b> マッチ、軍手、アルミ缶1人2つ(酒類、臭いの強いジュースの缶を避ける。お茶、水類推奨) ティーバック(あたたかい飲み物用)、新聞紙、カッター、コップ、予備の空き缶
服装	帽子、動きやすい服装(長袖、長ズボン:ナイロン製はさける)、運動靴 雨具(両手のあくカッパがよい)、水筒
プログラムの流れ	内 容
導入 <10分>	<b>【1. 集合】 &lt;2分&gt;</b> ①実施場所に集合し、あいさつ、自己紹介などを行う。 ②服装・持ち物チェック <b>【2. 導入(つかみの話)】 &lt;4分&gt;</b> ①問いかけ 例えば・・・ ・もし地震がきて電気が使えなくなったらどうやって生活する？ ・身近なものを使って、自分の力でご飯を作るにはどうしたらいい？ ⇒限られたもの、限られた場所でどんなことができるのか、考え、工夫することが求められる。 いざという時に生き残るための手段の1つを体験的に身につける。 <b>【3. 実施プログラム(流れ・概要)について】 &lt;2分&gt;</b> ①実施プログラムの概要説明(コンロ作り～火付け～沸かしたお湯でティータイム～振り返り) ②活動場所の確認(水場、トイレ、火つけ場) <b>【4. 安全・注意事項説明】 &lt;2分&gt;</b> ・刃物の扱い方(カッターの刃は短く) ・缶の加工(必ず軍手をして、缶の切り口で手を切らないように) ・火を扱うときの服装、注意事項
展開 <90～150分>	<b>【5. 空き缶コンロ作り】 ※実物、図、デモンストレーションを交えて説明</b> ①使用備品の配布(新聞紙、カッター、缶切り、マジック(黒)、見本の空き缶コンロ) ②空き缶コンロとは？ ・構造などについて説明(2つの缶の役割、煙突、薪投入口、灰出し口) ③空き缶コンロ・新聞紙薪の作り方説明 <空き缶コンロ> ※詳細は説明資料参照 ※加工するのは2つのうち1つ(コンロ)だけ。2つとも加工しないように注意！ <新聞紙薪> ※缶切りを使う順番待ちなど、空いている時間で作成を進めてもらう。 ・新聞紙半面を1/8にカットして硬く絞る。 ・最低新聞紙の半面4枚分を作っておく。 ④空き缶コンロ作りの実践 ・各テーブルを回りながらできない子のフォローをする。 ・カッター、缶切りの使い方をチェック。 ・軍手を着用しているかチェック。 <b>【6. 湯沸しチャレンジ】</b> ◆火がつくところまでのデモンストレーションを見せてから一斉スタート！ ①自分で作った空き缶コンロ、新聞紙薪を持って実施場所へ移動。 ②適度な間隔をあげ、ブロックの上に水平になるように缶をセットする。 ③加工していない缶に水を半分ほど入れ、コンロの上にセットする。 ④新聞紙薪をコンロの中にセットし、マッチで火をつける。 ⑤新聞紙薪を足しながら、水が沸騰するまで火を保つ。 ※薪を足すときは水をこぼさないように、上の缶を押さえながら補充。 ※途中でコンロに穴を増やすなど改良はOK。また、予備空き缶を準備しておく。 ※始めは全体の動き(安全面、手順を理解しているか)を見て、大丈夫そうであれば、できない子のフォローをする。 ⑥水が沸騰したらチャレンジ成功！ ⑦缶を持って移動。自分の使った場所の片づけをする。 (1.灰を灰缶に移す。2.空き缶をゴミ袋に移す。3.ブロックを元の位置に戻す。) ⑧お湯をコップに移して、お茶タイム。(持参のティーバックなどがある場合) ※完成に個人差がある場合、先生に確認して… ①できた子から片づけをしてお茶タイム。 or ②全員できるまでは火を絶やさないように維持し、みんなで片付けてからお茶タイム。 ⇒お茶を飲み落ち着いたところでもふりかえりの流れに移る。
まとめ <20分>	<b>【7. ふりかえり・わかちあい】 &lt;15分&gt;</b> ①感想 ②想いの共有(同じ体験をした者同士の想い・感想は体験をよりよいものにし、感動を深める。) 例えば・・・ ・各グループのハプニングや、苦労したところなどを共有。 ・この活動を通して、グループのよかったところ、少し困ったところなどに注目し、他の活動につなげていく。 <b>【8. まとめ】 &lt;5分&gt;</b> ・他の空き缶コンロの活用法紹介(ご飯が炊ける、ストーブになるなど・・・) ・他の身近なものを使ったサバイバル術紹介(ツナ缶でランタン、紙コップでゆでたまご、ダンボールオープンなど・・・) ・なぜ、このプログラムを実施したのかなど、実施者の想いを伝える <b>【9. 終了】</b> 終了したら、備品を事務所まで返却する。
備考	・強風の場合は、中止。 ・実施時間は2時間～3時間。